

燃ゆる感動 **かごしま国体**
— 特別国民体育大会 —

競技日程：9月21日（木）～24日（日）

9月21日（木） 成年・少年フリースタイル・女子

9月22日（金） //

9月23日（土） 成年・少年グレコローマンスタイル

9月24日（日） //

1回戦～3回戦

準々決勝～決勝

1回戦～準々決勝

準決勝・決勝

会場：鹿児島県日置市吹上浜公園体育館

- STAFF -

【少年の部】

監督：横山 巧（県立三浦初声高等学校教諭）

【成年の部】

監督：山縣 養一（県立磯子工業高等学校教諭）

県スポーツ協会派遣コーチ：和田 宗法（向上高等学校教諭）

県レスリング協会派遣コーチ：菅原 和哉（県立磯子工業高等学校教諭）

【試合総括】

少年の部

グレコローマンスタイル 51kg 級



野口 秀矩

（県立磯子工業高校2年）

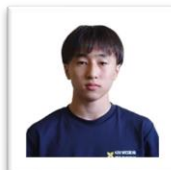
主な戦績：

2023年インターハイ出場

1回戦：大井（千葉県）VSU 0-9 0:59 負け

◆1回戦からいきなりU15日本代表との対戦。10年選手と高校から始めた1年選手との差は歴然だった。伸びしろは十分のため、来年に期待したい。

フリースタイル 55kg 級



菅原 大志

（慶応義塾高校1年）

主な戦績：

2022年全国中学生52kg級第3位

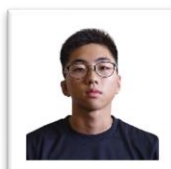
2023年インターハイ出場

出身：神奈川・磯工ベアーズ

1回戦：山口（群馬県）VPO 0-3 6:00 負け

◆6月の関東大会で接戦した上級生相手にリベンジを期待したが、善戦虚しく敗れた。まだ1年生。体力面を強化し、来年、再来年のエースとして期待したい。

フリースタイル 60kg 級



佐々木大貴

（横浜修悠館高校2年）

主な戦績：

2023年インターハイ出場

出身：北海道・帯広クラブ

1回戦：田島（京都府）VSU1 3-14 5:18 負け

◆中学生として実績のある1年生との対戦。勝っても次は第1シードという組合せにも恵まれなかった。来年への飛躍を期待する。

第5位入賞 (2.5点) グレコローマンスタイル 65kg 級



大田 譲

（日大藤沢高校2年）

主な戦績：

2023年インターハイ出場

出身：神奈川・Team Bison's

1回戦：bye

2回戦：前田（鹿児島県）VSU1 11-3 4:34 勝ち

準々決勝：鈴木（山梨県）VSU 0-8 0:40 負け 第5位

◆初戦の2回戦は、情報もなく、実力以上の力を出す地元選手との対戦のため、注意が必要だったが、難なく退けた。準々決勝は優勝した第1シードであったが、積極性が見られ、来年に繋がる内容。第5位と仕事を果たした。

グレコローマンスタイル 71kg 級



永池 将暉

(県立磯子工業高校2年)

主な戦績:

2022年インターハイ出場

2023年JOC杯U17G80kg級第3位

インターハイ出場

出身: 神奈川・磯工ベアーズ

1回戦: 鶴(宮崎県) VSU 0-9 2:24 負け

◆初戦は、下の階級から上げてきた65kgインターハイ3位の選手。やはり差があったように思う。フィジカル面の弱さがウイークポイント。体づくりをし、来年に期待したい。

準優勝(7点) フリースタイル 80kg 級



岡澤 ナツラ

(慶応義塾高校2年)

主な戦績:

2023年関東大会F80kg級優勝

JOC杯U17F80kg級優勝

U17世界選手権出場

出身: 茨城・日立市クラブ

1回戦: bye

2回戦: 伊藤(佐賀県) VP01 10-5 6:00 勝ち

準々決勝: 水崎(京都府) VP01 7-4 6:00 勝ち

準決勝: 高林(千葉県) VSU 10-0 3:54 勝ち

決勝: 浅野(静岡県) VP01 3-4 6:00 負け 準優勝

◆強豪選手が密集する死のブロック。粘り強く闘い決勝まで上がった。U17とU20の全日本チャンピオン同士の戦いは、戦略通りに運んだが、相手も研究してきた巧者であり、一瞬のスキを突かれ僅差の敗退。怪我で棄権したインターハイの借りを少し返せたとする。来年は間違いなく優勝候補であろう。

優勝(8点) グレコローマンスタイル 125kg 級



岩崎 和志

(県立磯子工業高校3年)

主な戦績:

2023年JOC杯U20F125kg級第3位

U17アジア選手権出場

関東高校大会G125kg級第2位

出身: 神奈川・全日本プロレスジュニアクラブ

1回戦: bye

2回戦: 宮崎(新潟県) VFA 8-0 1:15 勝ち

準々決勝: 阿部(栃木県) VSU 8-0 1:04 勝ち

準決勝: 乾(茨城県) VFA 4-0 1:01 勝ち

決勝: 中沢(山梨県) VP01 1-1 6:00 勝ち 優勝

◆第2シードの立場であったが、準決勝で警戒していた選手が1回戦で敗退し予想が外れた。初戦からの3試合は、得意の反り投げが決まり、体気温存して決勝に上がった。相手は、これまで何度も対戦し、壁を破れなかったライバル。戦略を十分に立て、プラン通りに試合運び頂点に立った。

成年の部

グレコローマンスタイル 60kg 級



高橋 慧大

(慶応義塾大学1年)

主な戦績:

2022年栃木国体G55kg級第3位

出身: 慶応義塾高校

千葉・松戸ジュニア

1回戦: bye

2回戦: 大河原(千葉県) VSU 0-8 1:54 負け

◆昨年、少年の部で第3位の実績があるが、強豪大学生との差は歴然であった。来年に期待したい。

第5位入賞(2.5点) フリースタイル 65kg 級



平岡 大河

(立教大学1年)

主な戦績:

2022年全国選抜60kg級第3位

インターハイ60kg級第3位

栃木国体G60kg級第5位

出身: 県立磯子工業高校

神奈川・逗子キッズ

1回戦: bye

2回戦: 鈴木(宮城県) VP01 10-8 6:00 勝ち

準々決勝: 松田(京都府) VFA 10-0 1:1- 負け

◆持ち前のレスリングはできていたと思う。準々決勝は強豪選手に惨敗したが、第5位入賞と神奈川県に貢献した。

グレコローマンスタイルスタイル 67kg 級

佐々木博久

(港南台ひの特別支援学校教)



主な戦績：
2019年全日本学生 G72kg 級第5位
2020年東日本学生 G77kg 級第1位
出身：日本体育大学
神奈川・横浜清陵総合高校

1回戦：長澤（和歌山県）VPO 4-3 6:00 勝ち

2回戦：渡部（愛媛県）VSU 8-9 6:00 負け

◆現役を退きながら、社会人としてよく調整してくれた。1回戦の接戦をものにし、2回戦も0.5秒のオーバータイムで、惜しくも入賞を逃がしたことは悔やまれる。

グレコローマンスタイル 77kg 級

青柳 裕樹

(神奈川大学3年)



主な戦績：
2019年茨城国体 G71kg 級第5位
2022年JOC杯 U20G77kg 級第3位
2023年東日本学生 G77kg 級第2位
出身：県立磯子工業高校

1回戦：高橋（高知県）VSU1 7-16 5:29 負け

◆先月、インカレ3位に入賞したものの、大差リードの場面からの逆転負けは大いに反省すべき。現役学生選手として、さらなる努力をし、来年は上位入賞を目指してもらいたい。入賞圏内だっただけに悔やまれる。

準優勝 (7点) グレコローマンスタイルスタイル 87kg 級

奈須川良太

(ホンダクリオ共立)



主な戦績：
2016年JOC杯カデット G85kg 級優勝
2018年JOC杯ジュニア G87kg 級優勝
2018年、2019年、2021年
全日本学生選手権 G87kg 級3連覇
2019年全国選抜 G87kg 級第3位
アジア・ジュニア G87kg 級第3位
出身：神奈川大学
県立磯子工業高校
神奈川・逗子キッズ

1回戦：目黒（岡山県）VSU1 9-1 3:30 勝ち

2回戦：宍戸（福島県）VPO1 3-1 6:00 勝ち

準々決勝：松崎（宮崎県）VFA 4-0 0:34 勝ち

準決勝：窪田（福井県）VPO1 3-3 6:00 勝ち

決勝：藤井（滋賀県）VPO1 1-7 6:00 負け 準優勝

◆実績は十分ながら、現役を退いて2年。体力面を精神力で補い、シード選手を倒して、茨城国体以来の準優勝は称賛に値する。まだまだ、本県国体選手として活躍してもらいたい。

フリースタイル 97kg 級

高橋凛太郎

(神奈川大学3年)



主な戦績：
2019年全国選抜 F92kg 級第3位
2023年JOC杯 U20F92kg 級第3位
出身：静岡・飛龍高校
神奈川・東海ジュニア

1回戦：bye

2回戦：岡（香川県）VSU1 4-14 3:56 負け

◆第1シードが棄権したため、上位入賞の可能性があったが、試合途中の怪我により、止む無く敗退した。怪我が無ければ3位が見えていただけに、悔やまれる内容であった。

女子の部

53kg 級

竹内美保子

(日大藤沢高校3年)



主な戦績：
2022年U17・49kg 級優勝
U17世界選手権 49kg 級第2位
2023年クリッパン国際 50kg 級優勝
インターハイ 53kg 級第3位
出身：神奈川・横須賀ジュニア

1回戦：五味（山梨県）VPO1 3-2 6:00 勝ち

2回戦：桜井（島根県）VPO1 8-4 6:00 勝ち

3回戦：高山（栃木県）VPO1 1-4 6:00 負け

◆1回戦から強豪大学生との闘い。苦戦を予想したが、見事接戦をものにしてくれた。3回戦では、さらに実績のある選手に果敢に挑んだ。入賞はならなかったが、確かな手ごたえを掴んだように思う。来年は大学生として、女子の中心選手として活躍を期待したい。

**松山 楓**

(法政大学1年)

主な戦績:

2022年インターハイ 68級第3位

U17世界選手権 49kg級第2位

2023年U2065kg級第3位

全日本選抜選手権 65kg級第5位

出身:東京・日工大駒場高校

神奈川・Team Bison's

1回戦:bye

2回戦:岩澤(秋田県)VSU 0-10 4:52 負け

◆強豪選手の集まる不運なブロック。地道な努力をして、来年にこの悔しさをぶつけて欲しい。

【大会結果について】

戦前は、全体的に組合せにも恵まれず、また昨年までの稼ぎ頭であるグレコローマンスタイル井上選手を欠き、苦戦を強いられる予想だった。少年の部 F80kg 級 U17 チャンピオンの岡澤(慶応義塾)も強豪の集まる死のブロックであり、計算できたのは、第2シードの G125kg 級の岩崎(磯子工)のみ、最小入賞者数も覚悟していた。成年の部では、実績はあるものの現役を退いている選手は計算が立たず、大学生の未知なる力に期待するのみであった。ふたを開ければ、決勝進出が3名、第5位が2名という、大きく予想を上回り、井上選手におんぶにだっこであった昨年の得点を2点上回り、総合順位を6つ上げて第15位と躍進した。欲を言えば、青柳、高橋の入賞が悔やまれるが、チームとして勝ち取った成果であった。特に、決勝に上がった F80 岡澤は、3年生 U20 チャンプと接戦を演じ、来年は是非優勝を目指して欲しい。そして、G125 岩崎は、高校最後の試合で、ライバルを初めて倒し、12年振りの県少年の部国体優勝者誕生に花を添えた。

【生活面について】

宿舎と会場までのアクセスが悪く、移動に苦勞していた他県が多い中、本県チームは車で6分の温泉宿であり、また、計量後に摂れるようにと、朝食を弁当に代えてもらうなど、部屋割りや入浴時間、色々な面で配慮をしていただいた。そして、今回、レンタカーでの送迎を中心に、帯同、サポートしていただいた、県協会の高橋理事長、鴨志田監督は欠かせない存在であった。改めて御礼を申し上げます。横山少年監督が、事前にアクセス情報を把握し、レンタカーを手配し、行動計画を練り、スムーズな遠征が出来たことは、結果にもつながった要因だと思います。そして、開催地によっては必要のない場合もありますが、出来れば今後は予算建てをしていただき、監督、コーチ以外のスタッフ帯同の重要性があると感じました。

【その他】

女子を含む高校生の本県代表選手は、昨年の栃木国体では、9名全員がジュニア出身の経験者でした。裏を返せば、高校から取り組む選手とジュニア経験者の差が大きく、さらに上位を目指すには経験値が重要であること。今年は、1名を除き8名がジュニア出身です。そして、成年の部を含む入賞した5名全員もジュニア出身選手でした。約10年前に、平岡氏が中心として立ち上げた、「ジュニア強化委員会」は、神奈川大学湘南キャンパスを拠点に、月1.2で合同練習、夏季強化合宿を行い、現在では、釜利谷高校を拠点に、時に専修大学、神奈川大学、慶応義塾大学等をお借りし、継続して行っています。また、小学生高学年による沖縄遠征は、選手たちのモチベーション向上と、中学での競技継続に大きく影響しています。今回、出場、入賞した選手の多くは、10年前からジュニア事業に練習に参加している選手です。選手強化には長い年月がかかります。少しずつではありますが、その成果が表れ始めている気がしています。

【課題と展望】

鹿児島国体に向けての強化(少年の部)は、8月の新潟十日町合宿および直前の3回の強化遠征を経て大会に臨みました。もう少し計画的、長期的に行う必要があると感じました。特に首都圏にはアクセスの良い大学が数多くあり、頻繁に遠征できる利点があります。次年度の検討課題にしていきたいと思っています。今回の少年の部男子メンバーは、G125kg級岩崎を除き、1.2年生という若いチームです。来年度に期待できる半面、ジュニア選手と高校から始めた選手の差があることから、苦勞しないで代表になった選手もいます。代表としての自覚と責任を持つこと。練習はもちろん普段の生活でも模範となり、最大限に準備する義務があること。沢山の人の想いを背負って出場すること、を伝えました。そして、県内で熾烈な代表争いが繰り広げられる状況が理想であり、それが神奈川県のスリリングレベル向上につながります。成年の部については、選考基準に基づき、原則、県内出身者および大学生を中心に選考試合を行いました。全体の国体強化を考えれば、高校から大学での継続指導も普及育成だと思っています。これは指導者の側面課題だと言えるでしょう。

本県のジュニアレスラー人口は、他県に比べ、横ばい状態、あるいは少しの増加傾向のようです。これはひとえ

に、県内ジュニアクラブ指導者、保護者、関係者の努力の賜物だと思います。普及と強化は同時進行であると考え、さらなる継続をお願いしたく存じます。しかしながら、その先の受け皿である県内の高校チームが少ないこと、学校環境や家庭の事情もあるかと思いますが、他県への選手流出も否めない事実です。底辺拡大のため、部の設立など、高体連の先生方の現場の努力も必要であると感じます。そして、ジュニアから高校までの一貫した県内指導が理想だと思います。

【最後に】

国体会場には、遠方にもかかわらず、保護者が応援に来てくださいました。本当にありがたい限りです。この場を借りてお礼を申し上げます。また、KANAGAWA・Tシャツの購入にご協力いただいた皆様、JOC 懇親会&国体壮行会へ出席していただいた方々、本当にありがとうございました。今後とも、引き続きチーム神奈川を支えていただければ幸いです。県内レスラー達の力になるはずです。なお、下記に遠征中のアルバムを掲載しました。ジュニアレスラー達が国体選手としてのステータスを感じ、神奈川のユニホームを着ること、活躍を目指すことを願っています。雑筆ではありますが、報告とさせていただきます。

■ [2023.09.09 \(土\) JOC 懇親会&国体壮行会 アルバム](#)

■ [2023.09.20-24 鹿児島特別国体 アルバム](#)

鹿児島国体県レスリング協会派遣コーチ：菅原